

小野薬品工業/ Bristol-Myers Squibb : 悪性胸膜中皮腫への「オプジーボ」の効果、「画期的」と評価 [新薬開発・販売 FRONTLINE]

No.4929 (2018年10月13日発行) P.15

登録日: 2018-10-11

コーナー: [DATA](#) > [新薬開発・販売 FRONTLINE](#)

診療科: [医政・医療](#) > [医薬品・薬価](#)



本誌佑京大特別教授のノーベル賞受賞で再注目される抗PD-1抗体「オプジーボ」（一般名：ニボルマブ）の効能・効果のうち、8月に新たに承認された悪性胸膜中皮腫について解説するセミナーが9月14日、小野薬品工業/ Bristol-Myers Squibb の主催で開催された。

悪性胸膜中皮腫は、石綿（アスベスト）曝露から約30～50年を経て発症。国内の患者数は約2000人と推定されている。初回薬物療法としてはシスプラチン+「アリムタ」（ペメトレキセド）の併用療法が行われているが、この療法に不応・不寛となった患者には標準的な治療法がなく、新たな治療法が求められていた。

14日のセミナーで講演した岸本卓巳氏（アスベスト疾患研究・研修センター所長=写真）は、オプジーボを投与した悪性胸膜中皮腫患者34例のうち23例（部分奏効10例、安定13例）で効果がみられた国内第Ⅱ相試験の結果を「画期的」と評価。「（オプジーボは）現在、シスプラチン+アリムタなどの化学療法後のセカンドラインと位置づけられているが、今後の展望として、ファーストラインでの効果や、術前・術後療法への拡大に対する研究開発・エビデンス創出が待たれる」と述べ、さらに使用機会を増やすための治験に期待を寄せた。



週刊日本医事新報 4929号



発行日: 2018年10月13日

形態: B5判

頁数: 100頁